

1 研究の流れ

(1) 4月

| 研究仮説 |
|--------------------------------------------|
| ① 学習課題の共書き 親密度の低い言葉 |
| ② 学習課題の吟味 自力解決の時間確保 考えたことを書かせる |
| ③ 振り返りの時間確保 視点の明確化 書かせる “学びの手ごたえ” |

(2) 5月中旬

| 教科研究計画 |
|----------------------------------|
| ① 研究仮説の手だてを踏 まえた教科における手だ て |
| ② |
| ③ |

(3) 5月下旬

| 学習アンケート |
|----------------------------|
| ○ 研究仮説の手だてに沿 ったアンケート項目 |
| ○ 教科における手だてに 沿ったアンケート項目 |

(4) 6月上旬

| リーディングスキルテスト |
|-----------------|
| ○ 生徒 1・2年生受検 |
| ○ 教員 8名受検 |

(5) 6月～11月

| 授業づくりワークシート 学習指導案 【互見授業】 |
|-----------------------------|
| ① 教科における手だてを 単元や本時のレベルで |
| ② |
| ③ |

(6) 11月

| 学習アンケート |
|----------------------------|
| ○ 研究仮説の手だてに沿 ったアンケート項目 |
| ○ 教科における手だてに 沿ったアンケート項目 |

2 リーディングスキルの視点から授業を変える

(1) “一意”として伝わらない

- ① 授業者は、ちゃんと伝えたつもりが、実は伝わっていない
- ② 学習課題を一意として伝える → 共書き 親密度の低い言葉
- ③ 主語⇔述語、修飾語⇔被修飾語、目的語などを問う。指示代名詞が示す言葉、省略された主語や目的語を明確にする。 「係り受け解析」「照応解決」

(2) 先行研究より

- ① 基礎的読解力の向上は学力向上にも関係する。
- ② 暗記型の学習を促しても基礎的読解力が向上するとはいえない。
- ③ 教科書の学習用語や定義の意味を正しく理解することが、基礎的読解力向上に関係する。
→ 定義を声に出して全員で復唱する 理科・社会コンテスト
- ④ 意味や理由を説明する問題に基礎的読解力が関係する。

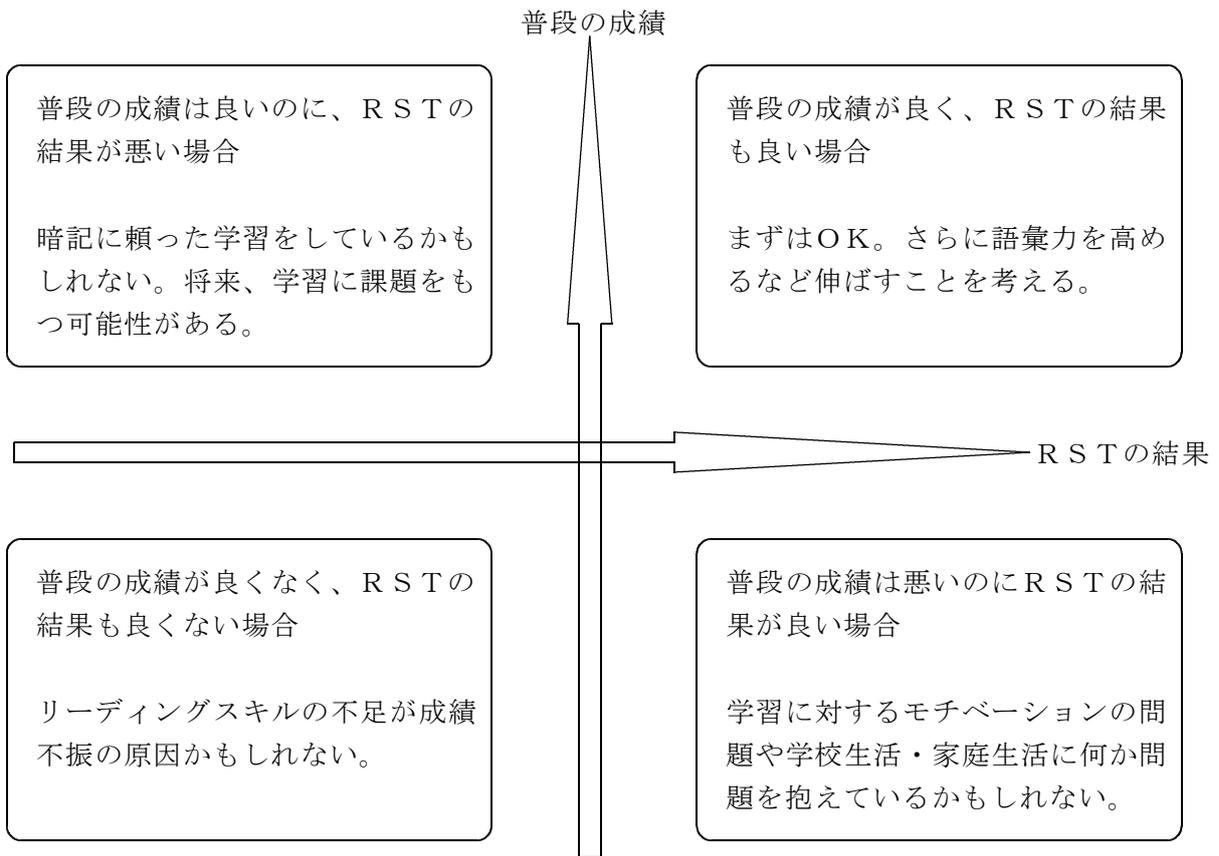
(3) リーディングスキルを活用した授業づくりの実現の先には

- ① 生徒のつまずきや困難さを予測できる。
- ② 授業者の指示や発問が変わる。
- ③ 授業が変わる。
- ④ 読解力が向上する。
- ⑤ 汎用的基礎読解力が高いと、自学自習する力が高く、授業内容を理解する力が高い。それが学力向上につながる。

(4) リーディングスキルテスト (RST) を活用した授業改善のポイント

- ① 授業者がリーディングスキルテストの視点で教科書を読む。
- ② 具体例“生成”や同義文“生成”の活動を取り入れる。
→ 2文(考え)が同義か異義かを判断させたり、言い換えをさせたりする。
- ③ 授業者の意図等が伝わるような表現を心がける。
- ④ 教科書を音読させる。
- ⑤ 各教科で文章の読み方を明示的に指導する。
- ⑥ 意図的にアウトプットの機会を設定し、誤読していないかを確認する。
→ 根拠に基づき考えを発表したり、グラフや表等から事実を読み解いたりする活動

3 リーディングスキルテスト (RST) を受検し実態を分析・把握する



4 子どもたちは読めてはいないことを念頭に

- (1) 読解力の有無が、子どもたちの可能性を大きく左右することを認識する。
- (2) 教科書を読める子どもたちにして卒業させるにはどうしたらよいだろうかを常に意識する。
- (3) 教科書を正確に読むとはこんなに骨の折れることだったのかと、子どもたちと読解の難しさを共有しつつ、共に成長する。